

外は雪でも元気よく

ミニミニオリンピック

11月28日(木)、婦人センターで『ミニミニオリンピック』(市主催)が行われ、1歳10カ月から3歳7カ月までの子どもとその親など、33組が『かけっこ』や『玉入れ』など計6種類の競技で、さわやかな汗を流しました。

『バイキンマンをやっつける』は、アンパンマンのお面を付けた子どもが、平均台などの障害物を乗り越えて、ゴール地点にあるバイキンマンを倒す競技で、バイキンマンが描かれた段ボールに豪快に体当たりする様子に、会場は大いに盛り上がりました。

また、『パン食い競走』では、好みのパンをじっくり選び、ゴールを目指さず、そのままお母さんのところへ駆け寄る、ほほ笑ましい場面も見られました。

11 / 28



▲バイキンマンをやっつける(上)、パン食い競走

年越しは手打ちそばで教室
11月30日(土)・12月1日(日)、郷土資料館で『年越しは手打ちそばで教室』(市主催)が開催され、2日間で30人の参加者が郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の指導のもと、そば打ちを体験しました。
講師の手法を見た後でそば打ちを始めた参加者ですが、実際にやってみると「生地を均等に丸く伸ばせない」、「慣れないそば切り包丁で、なかなか細く切れない」など悪戦苦闘しつつも、笑顔でそばを完成させていました。

年末に向けて伝統文化を学ぶ



▲慎重に生地を伸ばす参加者

11/30
・12/1



▲委嘱状を受け取る袁さん(左)

香港から登別への観光客誘致に感謝と期待

登別市観光大使委嘱状交付式

12月3日(火)、登別グランドホテルで『登別市観光大使委嘱状交付式・講演会』(市・登別観光協会主催)が開催され、香港から最も多くの観光客を登別に送客した、EG Lツアーズ(香港の旅行会社)社長の袁文英(えんぶん)さんに、市で初となる観光大使の委嘱状と盾が手渡されました。

交付式後に行われた講演会では、袁さんから『楽しい観光事業』について、ユーモアを交えた話があり、約110人の観光関係者などは、熱心に耳を傾けていました。

12 / 3



人と人の関わり合いの深さが大切

協働のまちづくりセミナー

12月1日(日)、市民活動センターで『協働のまちづくりセミナー』（市主催）が開かれ、町内会をはじめ市民活動団体の代表や学生、市職員など約30人が参加しました。

このセミナーは、市民と行政による協働のまちづくりに理解を深めてもらうために開催されたもので、初めに、講師の『IHOE人と組織と地球のための国際研究所』代表の川北秀人さんが、協働のまちづくりには、人と人の関わり合いの深さが大切などと講演。

参加者は、グループごとの意見交換を通じ、協働のまちづくりの重要性を学んでいました。

12 / 1



▲バレエのステージ発表

日頃の活動の成果を披露

第3回文協フェスティバル

12月8日(日)、市民会館で『第3回文協フェスティバル』（登別市文化協会主催）が開かれました。

この催しは、登別市文化協会に加盟する文化活動団体が日頃の活動成果を市民に知ってもらおうと、6年ぶりに開催したものです。

会場では、写真や美術、短歌、俳句、魚拓、書道など10団体による作品の展示や実演に多くの市民が見入っていたほか、三曲や民謡、詩吟、バレエ、大正琴など12団体によるステージ発表では、各団体の熱演に大きな拍手が送られていました。

12 / 8

手づくりのしめ飾りでお正月を

2014年しめ飾りづくり

12月14日(土)、郷土資料館で『2014年しめ飾りづくり』（市主催）が行われました。

31人の参加者は、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』のメンバーが7月に刈り取ったスゲで縄をより、よった縄に扇や2014年の干支の馬をあしらった飾りなどを差し込み、しめ飾りを完成させていました。

出来栄えについて、「思っていた以上に本格的なものができました。良い材料がそろっているのが簡単に作れました」と満足げな声が聞かれ、正月を迎える準備を楽しんできた一日となりました。

12 / 14



▲装飾を相談し合う参加者